

ふらい

2019 spring  
vol.8

公益財団法人 PHOENIX  
木材・合板博物館情報誌

写真：株式会社 ワイス・ワイス

# PLY

木と人の素敵な出会いを探る

巻頭インタビュー ■ 「重ねる」

第8回 株式会社 ワイス・ワイス 代表取締役社長 佐藤岳利

木を楽しもう 08 建築家 田中敏博 「3×6合板の幾何学・椅子」

木漏れ日散策 05 「木の仕事—福山弘構造デザイン」



第8回

株式会社ワイス・ワイス  
代表取締役社長 **佐藤岳利**

## 「重ねる」

ka・sa・ne・ru

温もりのある質感と、清々しい香り。木は誰からも愛される自然素材です。しかし、伐採地には森林破壊や違法就労など見たくない現実も横たわっています。そこで注目されているのが「フェアウッド」。伐採地の自然や社会に配慮した木材です。オリジナルの家具作りを通してフェアウッドのネットワークを広げるワイス・ワイス社長、佐藤岳利さんにその経緯と思いをうかがいました。

# PLY

巻頭インタビュー

# “ 家具のかたちの先に ”

## 暮らしや社会をデザインする

電気も貨幣もない村で見た  
本当に豊かな暮らし。

ワイス・ワイスは、2017年にFSC認証(注1)を取得されています。家具業界ではかなり先駆的な取り組みですね。

私たちが「グリーン宣言」として、製品の長期使用、安全な材料、森林保全、環境負荷削減を掲げたのが2009年。それから4年かけてフェアウッド使用率100%を達成し、現在はその8割強が国産材です。国産材の調達・生産ネットワークも北海道から沖縄まで24地域に広がりました。訪ねた先々で出会った

人が、どんな思い、どんな技術で作っているのを見て、そこからオリジナルのものをデザインしていく過程が今は本当に楽しいですね。

大学では経済を学び、店舗・展示の施工会社である乃村工藝社に入られました。当時から森や環境にも関心があったのですか？

じつは、そうでもないんですよ。学生時代はバブル全盛期で、青山あたりのカフェバーで遊んでばかりいました。就職もいい時代で、



ワイス・ワイス本社

(注1) FSC 認証  
FSC (Forest Stewardship Council® : 森林管理協議会)が認定する国際的な木材の認定制度。適正な森林管理を認証する「FM認証」と、流通・加工を認証する「CoC認証」の2種類がある。



オフィスに置かれた木のオブジェ  
(ドイツ製)

同級生は金融大手が青田買いです。私は金融業には興味が湧かず、自分がワクワクした空間をプロデュースする仕事がしてみたいと乃村工藝社に入りました。

ところが、入社して早々に命じられたのは香港のホテルの現場監督です。以来7年間、アジア各国のプロジェクトの現場責任者を担当しました。たった1人で現地に入り、人を雇ってチームを組み、設計から施工管理、引き渡しまで、すべてをマネージメントするんです。伊勢丹百貨店のシンガポールやバンコクの店舗も担当しました。考えてみれば、学生時代に1年間アメリカに遊学し、車でアメリカ横断の旅をしていたので、こいつなら1人でも何とかするだろうと思われたのかもしれない。

ちょうど社内ベンチャー制度の公募があったので、応募したら採用されたんです。じつは、私は旅行が好きで、海外赴任中も休みをとっては旅をしていました。そこで東南アジアの少数民族に出会い、足かけ4年ほど通ったんです。

その後、海外赴任を終えて本社異動になり、ワイズ・ワイズを起業されました。どんな思いがあったのですか？

電気も貨幣もない村で酋長の家に寝泊まりするんですが、その暮らしがすごく豊かなんですよ。お金こそないけど、きれいな川が流れる森に住み、おいしい魚も芋もある。一方、自分はいいい企業に入ってプール付きのマンションに住んでいるけれど、徹夜続きの毎日仕事に追われているわけです。証券会社の友人たちは、ひと月数億円の売上ノルマを抱えて鬱になっている。そんな生活って何だろうって思いました。

そして、日本の風土、自然の豊かさにも気がつきました。季節に伴って暮らしが移ろい、食べものや器も変わる。なんて繊細で多様性に満ちた文化なんだろうと。そこで、「豊かな暮らし」をテーマに事業を興したんです。

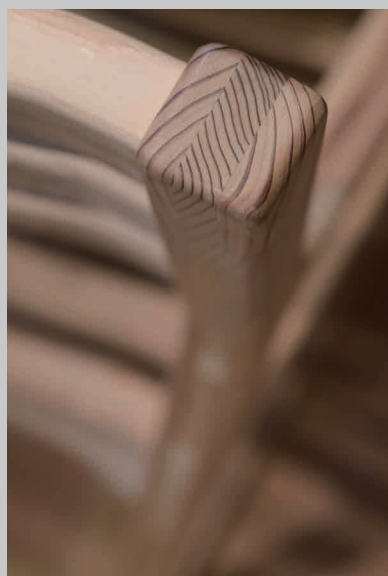
全国の連携先がマッピングされた地図の前でその経緯を語る佐藤社長



# 自分たちの作る家具が 地域や自然を破壊していた。

「豊かな暮らし」をテーマに、具体的には  
どんな事業を考えていらしたのですか？

そこから、フェアウッド調達の旅が始まる  
わけですね。



暮らしの軸となる衣食住に、音楽、旅、学  
びといったカテゴリーをいくつか加え、ワ  
イス・ワイス流の豊かさを提案しようと考  
えました。そして、熱帯雨林に自生するヤシ  
科の植物、ラタンで家具を作ったんです。成  
長が早く、伐っても数年で再生するエコロ  
ジカルな素材です。当時、インテリア業界で  
はライフスタイルショップやアジアンブーム  
などのおかげで景気は悪くなかった。その時  
流に乗って会社の売上も伸び、一時は青山の  
ショールームでカルチャーサロンやカフェま  
で運営し、社員も40人を超えました。

状況が一変したのは2005年に起きた  
”姉齒事件”、マンションの構造計算書偽装で  
す。住宅やデベロッパーの着工数が激減し、  
あつという間に、わが社も赤字に転落。売上  
確保のため、中国で安い生産工場開拓に奔走  
する羽目になったんです。

その時、ローコストの裏にある暮らしを目  
の当たりにしました。工員たちは小さな部屋  
に詰め込まれ、生乾きの洗濯物の下で粗末な  
ベッドに何人も並んで寝ている。まるで牢獄  
ですよ。「豊かな暮らし」なんて言っても、誰  
も幸せにしていないと愕然としました。

中国から戻って、まずフェアウッドの勉強  
会に参加しました。そこで熱帯雨林の違法伐  
採や、絶滅の危機にあるオランウータンのこ  
とも知りました。国際環境NGO「FoE」の方  
にも出会いました。家具業界におけるフェア  
ウッド調達の成功事例をつくりませんかと声  
をかけていただき、一緒に取り組みを始めた  
んです。

まず、われわれの家具の材料はどこから来  
ているのか、1年間かけて調べました。生産  
工場、製材所、木材商社、輸元とたどって  
わかったことは「最後まで追い切れない」と  
いう事実でした。納品伝票は出てきても、合  
法性を示す書類は何も出てこなかった。

そこで、工場に向いて合法性を証明する  
書類を全商品について揃えて欲しいとお願い  
しました。その結果、中国の工場は取引でき  
なくなり、ワイス・ワイス創業時か  
らの役員や幹部社員も方針転換に反対して辞  
めてしまった。

しかし、真実を知ってしまったら後戻りは  
できません。残った社員と協力会社、新たな  
提携先とゼロから勉強をして、2009年の春、  
ワイス・ワイスは新しく生まれ変わったんです。





宮城県栗駒山の杉材で作った「KURIKOMA」は2013年にソーシャルプロダクツ・アワードを、ワイス・ワイスの「東日本大震災被災地周辺地域の杉を活用したエコファニチャー事業」は、2012年にグッドデザイン・ものづくりデザイン賞を受賞。



## 国産材とフェアウッドで森をつくる家具を。

フェアウッドだけではなく、国産材の利用にも取り組んでいらっしゃいますね。

国内の生産地を訪ねて、改めて国産材の現状を知ったんですよ。たとえば、岩手県岩泉町は町でFSC認証を取った先駆的な自治体ですが、樹齢数十年の大きな広葉樹を製紙用のチップにしています。国産材は用材には回らない。じつに、もったいない話です。

そんな矢先、今度は東日本大震災が起こった。「被災地で何ができるか考えよう」と誘ってくれた方と、まだ自衛隊のいる被災地に入りました。そこで「東京から来たなら仕事をつくって欲しい。家具作りで救える人もいるはずだ」とアドバイスを受け、東北の地で地元材を使った家具を作ろうと決心したんです。

宮城県の杉材で作った家具は、ソーシャルプロダクツ・アワードも受賞されました。

「KURIKOMA」の誕生には、いくつもの奇跡がありました。まず、生産工場として紹介された宮城県の栗駒木材さんは製材が本業で、震災がなければ家具など作らなかつたでしょう。無垢の杉材をCLTの技術で軽くて強い椅子に仕上げたデザイナーの榎本文夫さんは、震災前からそのプロトタイプを作っていて、どこかで使いたいと考えていた。私

は以前から榎本さんを知っていたし、運良く製材所の工作機械でこの家具が生産可能だとわかって、プロジェクトは実現したんです。

このシリーズは、使うことで震災復興に貢献できるし、杉材のやわらかな質感や軽さ、絶妙な曲線と圧迫感のない座面も好評です。IT企業のドリーム・アーツやハウステンボスのホテルなど、企業からの大口注文もいただき売上も伸びました。



東京のソフトウェア開発企業(株)ドリーム・アーツの広島本社R&Dセンター。執務室から会議室まで広島県産材がふんだんに使われている。日経オフィス賞中国ニューオフィス奨励賞(2017年)、ウッドデザイン賞(2018年)受賞。

日本の家具業界にも、フェアウッドが受け入れられる時代になったのでしょうか？

残念ながら、日本におけるフェアウッド市場はまだ途上です。しかし、パタゴニアやスターバックスなど環境と社会に敏感な企業からは、材料調達のパートナーとしてご指名をいただくことができました。私の古巣の乃村



a piece of forest...森のかけら(照明器具)  
「隠岐の島(島根県)」の杉材を、社寺づくりの伝統を受け継ぐ隠岐の島の大工によって製作。インテリアデザイナー橋本夕紀夫氏がデザインした「木の温もりを感じる灯り」。



SATO, Taketoshi

PROFILE

佐藤岳利(さとうたけとし)

株式会社Wis・Wis 代表取締役社長  
1964年、群馬県に生まれる。1988年、青山学院大学経済学部卒業。同年、(株)乃村工藝社に入社。海外プロジェクトのマネジメント業務に従事し、1996年にWis・Wisを設立。東京・青山を拠点にオリジナル家具の販売を始める。2007年には東京ミッドタウンに生活雑貨専門店「Wis・Wis トータルズ」も展開。2009年の「グリーン宣言」を機に、フェアウッドや国産材による木材調達を推進し、2013年にはフェアウッド調達率100%を達成。FSC認証も取得し、日本の豊かな暮らしを支える仕事づくりを続けている。

Wis・Wisという社名には、W I S E (知恵)を持った人が隣の人、次世代の人と知恵を分かち合い豊かに暮らしていこうという思いを込めています。ロゴは人と人が手と手合う姿。軽やかで覚えやすいように、読み方はWisズではなくWisとしました。人と人がつながって協力すれば、戦いはありません。その中でオンリーワンとして成長

工藝社も「フェアウッド応援宣言」をして、取引先へ周知活動を始めています。SDGs (注2) やESG投資 (注3) の流れもあるので、今後は日本の企業もフェアウッド調達を避けて通れなくなってくるでしょうね。何でも安く早くきれいに作ることはできる時代ですが、私たちはそこと戦うのは止めたんです。デザインって、ただカッコいいモノを作ることじゃない。作ったモノによって生まれる社会、未来まで含めて考えることが真のデザインだと思っています。

していくのもひとつのやり方です。そして、その仕事を通じて地域社会が豊かになり、森や里が美しくなれば、それがいちばんだと思います。

取材を終えて・・・

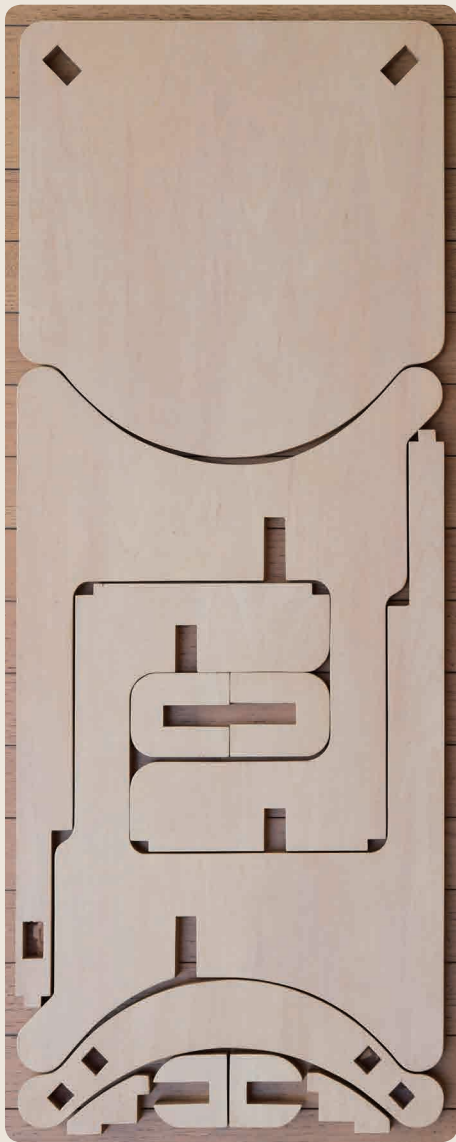
〔注2〕SDGs Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略称。持続可能な開発を進める国連の開発目標。2016年から2030年までに達成すべき17の目標と169の指標からなる。

〔注3〕ESG投資 投資先の企業について、環境(environment)、社会(social)、企業統治(governance)に対する企業の取り組みを重視・選別して行う投資のこと。

当日の取材は東京・青山のオフィス。表参道から小さな路地をずいぶん入った、住宅と店舗が混ざり合うなかにあります。『デザインのメッカ、青山から世界に打って出よう』と企んでいたんですよ」と笑う佐藤社長ですが、お話のなかで何度も出てきた「行動を起こさなきゃ何も変わらない」という言葉が耳に残ります。世界がTOKYOへやって来る2020年にも何かを「企んでいる」のではと、ちょっと楽しみです。



オーガニック・ソファ「SPRING」  
ソファの神さまと呼ばれる名匠、宮本茂紀氏と作る、国産材や皮革など自然素材を使った「100年使える」オーガニック・ソファ。その新バージョンを、グラフィックデザイナーの佐藤卓氏、初のプロダクト・デザイン作品として4月に発表する。



# 木 を 楽 し も う

08



## 建築家 田中敏溥 「3×6合板の幾何学・椅子」

田中敏溥建築設計事務所  
〒151-0053 東京都 渋谷区代々木 2-26-10 風蓮人ビル 102  
<http://tanakaaa.com/>



田中敏溥 (たなか としひろ)

1944年 新潟県村上市生まれ  
1969年 東京藝術大学建築科卒業  
1971年 東京芸術大学大学院修了  
茂木計一郎氏のもとで環境計画及び  
建築設計活動に従事  
1977年 田中敏溥建築設計事務所設立

\*展覧会

1992年 「建築家 田中敏溥の椅子・一枚の板から」ギャラリー山口  
企画展「3×6ベニヤの幾何学・田中敏溥椅子展」東京造形大学附属  
横山記念マンズー美術館

\*コレクション

フランクフルト工芸美術館  
埼玉県立近代美術館

\*所属

日本建築家協会会員 (JIA 登録建築家)  
日本建築学会会員  
東京建築士会会員

建築設計の傍ら、仕事の合間に合板の椅子を作ってきました。  
3×6尺の合板から、パズルを解くように無駄なく型抜きした椅子を考えるようになった。  
1枚の板から3脚、4脚、5脚、小さなものでは8脚が制作可能。素材と大きさの印象から、主に住宅のような小空間に合う椅子、素足で使うサブチェアだと思っている。  
このような道楽とも言える椅子作りを通して得たこともある。

一つ目は、「素材の特性がよくわかるようになる」こと。  
二つ目は、「もったいないという気持ち湧いてくる」こと。  
三つ目は、「新しい可能性が見えてくる」という、ときめきを味わったこと。

この小さな世界から得た3つのことは、私の建築における設計活動に少なからず影響を与えてくれたと思っています。

田中敏溥

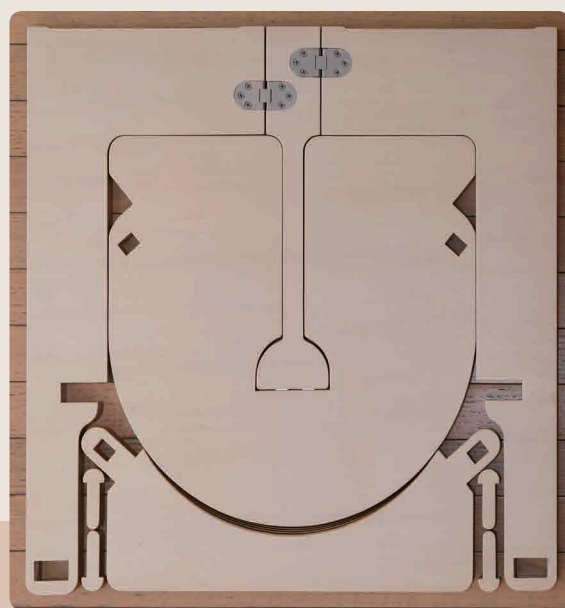
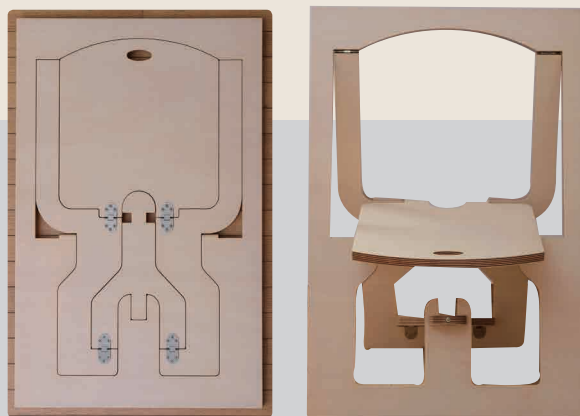


撮影：川島保彦



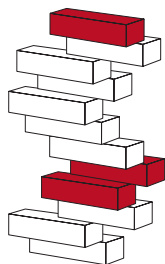
合板の幾何学・椅子」







## イベント情報

Event  
schedule

2019年 4.5 ~ 第1、第3金曜日 (全6回)



## 「ノコギリ木工教室」

ノコギリで材をまっすぐ直角に切る道具を使い  
箱やフォトフレームを作ります。

2019年 5.8 ~ 毎週水曜日 (全12回)



## 「博物館の木彫講座」

木彫を楽しむ・入門編



如来像



## セミナー情報

Seminar  
information

2019年 4.9 (火) → 13 (土) ■ ウッドマスター【基礎】講習会

新入社員の方々を主な対象として森  
林・林業・木材産業に関する基礎  
知識の講義及び現場見学。

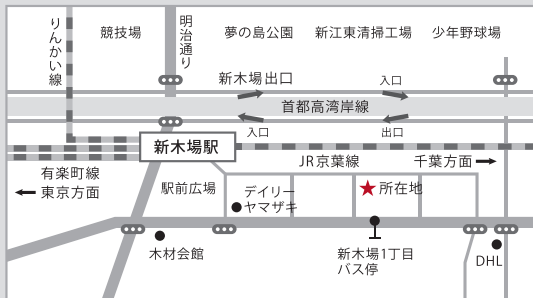
4.14 (日) ■ 仏像鑑賞の手引き -楽しい仏像の見方- 13:30 ~ 15:00

5.19 (日) ■ 巨樹 (講師:巨樹写真家 吉田繁) 13:30 ~ 15:00

※イベント情報はホームページでご確認ください。

[お問い合わせ] 木材・合板博物館 TEL 03-3521-6600 / FAX 03-3521-6602 E-mail info@woodmuseum.jp

## 公益財団法人 PHOENIX 木材・合板博物館のご案内



【開館時間】 10:00 ～ 17:00 (最終入館時間 16:30)

【入館料】 無料

【休館日】 月曜日、火曜日、祝日、年末年始

※幼児および小学生の入館には、保護者のつきそいが必要です。

※都合により開館日・時間を変更する場合がございます。

【アクセス】 ① ●東京メトロ有楽町線 ●JR 京葉線 ●東京りんかい高速鉄道  
「新木場駅」下車 徒歩7分

② ●東京メトロ東西線  
「東陽町駅」下車  
-----> 都営バス [②のりば] 木 11 甲  
「新木場一丁目」バス停下車 徒歩1分

このビルの  
3F・4Fです!

所在地：東京都江東区新木場 1-7-22 新木場タワー 3F・4F

TEL 03-3521-6600 / FAX 03-3521-6602

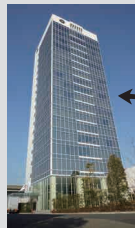
facebook



HP



<http://www.woodmuseum.jp/>



### mini 合板情報

08

#### 合板の接着層を活かしたデザイン

合板は一般的には平面材料として利用され、節の出現頻度など表裏面の品質によってグレードが定められています。ロータリーレースでカツラ剥きされた単板の表面は板目材となり、一方、化粧合板の表面に用いられるスライスト単板は斜切面の板材や角材の固定方向によって様々な模様(木理)が製作されます。もう一つの合板の特徴は積層面の規則性で、同一樹種の場合でも各層の繊維方向が直交することから板目面、木口面が交互に重ね合わされ、お菓子のミルフィーユ状になっています。接着剤の色によってもその重なる様子は強調されて見えてきます。合板の切断面はテープ処理されて覆い隠されることが一般的ですが、端部を活かしたデザインも数多く生み出されています。色や密度の異なる樹種を重ねることにより、さらに特殊合板として積層面をデザインすることもあります。成形合板のヤコブセンの椅子、アアルトの名作などに代表されますが、北欧のデザインに多くの例を見ることができます。日本でも LVL を 2 次加工して積層面だけが見えるようにし、あたかも接着層が柱目板のように見える効果を生み出したデザイン製品も登場しています。積層材料の組み合わせのパラエティは無限と言えるでしょう。(&)

#### 編集後記

本誌 PLY 8 号であつという間の 2 年が経過しました。読者の皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。創刊以来の「重ねる」をテーマにした巻頭インタビューでは 8 人の方に登場頂きました。歳月を重ね、経験とともに時代の変化を読み取りながらも、チャレンジ精神にあふれた方々ばかりでした。それぞれの言葉の中に奥深いものを感じていただけたら幸いです。次号からのテーマは「つなぐ」を予定しています。重ねあわせた結果をネットワークを活かして点から線へ、線から面へ、さらに面から立体へと広がることをイメージしています。森林資源の活用も、川上から川中へ、川中から消費者ニーズである川下へとつなぐことが重要になっています。ニーズに応える、ニーズを喚起することから、我が国の森林資源の活用を見直すことが重要になっていると思われまふ。(&)

# PLY

第 8 号 2019 Spring

【発行日】 2019 年 3 月 10 日 ■定価: 1,080 円 (消費税込)

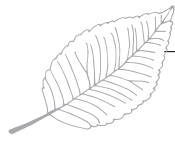
【発行】 公益財団法人 PHOENIX 木材・合板博物館  
〒136-8405  
東京都江東区新木場 1-7-22 新木場タワー 3F・4F  
TEL 03-3521-6600 / FAX 03-3521-6602  
E-mail info@woodmuseum.jp

【発行者】 吉田繁

【編集】 安藤直人(編集長)、山口和美(副編集長)、  
PLY 編集委員会

【デザイン】 丸山佐知子

# 木漏れ日散策 …… 05



## 「木の仕事—福山弘構造デザイン」

福山弘構造デザイン

E-mail info@hafnium.jp http://www.hafnium.jp/

### 安永寺



当事務所は数年前まで主に構造設計として活動していたが、現在は意匠計画も当事務所で行っている。この数年間で構造計画としてかかわったものも含めると13棟ほどでCLTを活用している。棟数としては多いが、いわゆるCLTパネル工法に属するものは2棟ほどだ。CLTについては騒がれすぎている感が否めないが、基本的には単に「大きな板」である。却ってただの板であると捉えるところから、素材の特性を活かした使い方が生まれてくると思う。ここではそのような観点から当事務所で計画した数物件について紹介したい。

福山弘

埼玉県狭山市の新築の寺院。簡素な東屋のような造形、そして大きな軒から内部にまたがる天井面を伝って入り込む光と陰影を、CLTと軸組による垂木組との組み合わせによって作りだす試みである。

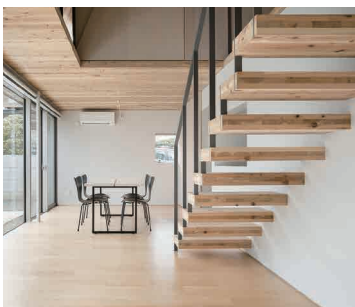
CLTは軒桁であり垂木であり天井であり軒天井でもあるものとして等方向に有効な機能が求められ特殊な4層4プライとして製作した。かつこの面は上部に円形配置された垂木を支えるスラストリングであり、この強固なリングによって屋根が閉じた系となることで、下部の柱はピン柱として上部を支えているのみで、下部の壁から浮いたような構造を作ることと可能としている。

### 函南の家



静岡県伊豆地方の傾斜地に建つ週末住居。コンクリートの打設の難しさと森に囲まれて躯体下の通気を完全に確保したいところからRC基礎上の浮かせたプラットフォームとしてCLTを利用した。強軸方向を直交させた2層のCLTの重ね合わせに拠ってピン柱によるフラットスラブ構造が成立している。2層重ねられたCLTはアプローチからの見上げとなり、断熱層を兼ねている。

### 人間の家



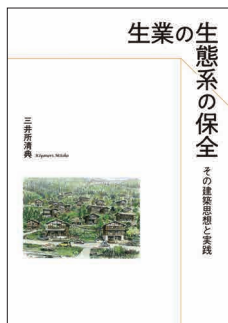
埼玉県入間市の住宅。ここではCLTがデプスの大きい小屋組を面トラスとして構成している。トラスを線で構成される3角形でなく、面で構成される3角柱として構成することで弱点である接合部が、線と線の交点としての点ではなく、面と面の交点として線になり十分な接合性能を担保できている。階段も片持ちのよう片持ちとは全く異なるCLTのマスとしてのねじり剛性を利用した形式。

A

## 『生業の生態系の保全 その建築思想と実践』

三井所清典 著

判型：A5／154頁 発行：2019年2月 3,024円(税込)



地域に根差す建築・まちづくり活動に主眼を置いて活動し続けてきた三井所清典(アルセッド建築研究所)のこれまでの思索、活動の全てを、その作品や文章などから読み解く。

株式会社建築資料研究社 出版部  
TEL 03-3986-3239 E-mail publicat@to.ksknet.co.jp

B

## 『ひで代さんの染しごと 布あそび』



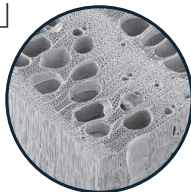
PLY 6号で紹介した「知半アートプロジェクト」。伊豆大仁の江戸期木造民家・国の登録有形文化財「知半庵」で芋版染の特別展示開催。94才で雑誌「ミセス」にデビューした伊豆の女(ひと)ひで代さんの作品を生家で公開。

知半アートプロジェクト  
<http://chihan-art.com> (E) [info@chihan-art.com](mailto:info@chihan-art.com)  
会期：3月1日～3月31日 ※休館日：3月7日、14日、28日

## PLY 木の誌上展覧会 (裏表紙)

### 第8回 ■ 走査電子顕微鏡写真

#### 「ヤチダモ」



モクセイ科トネリコ属の落葉広葉樹。北日本の湿地に多く分布し、幹が通直で成長もよく大径材が得られる。木材は緻密で心材が濃い橙色で美しく、テーブルや椅子などの家具材や床材としても極めて人気が高い。

北海道大学構内の擦文(さつもん)時代の遺跡であるサクシュコトニ川遺跡では、川をせき止めるテシ(築：やな)の材料におそらく割り取ったと思われるヤチダモの杭が大量に使われ、また住居用柱などに使われたと推定される炭化した木材が大量に発見されており、繊維が通直で取り扱いやすかった木材が古代においても重宝がられていたことが推定される。ところでヤチダモの心材は、ハルニレと同じく多湿心材と呼ばれる高含水率心材であることで一般的な広葉樹材とは異なっており、遺伝的な性質であると考えられているが、過去には木材乾燥の専門家達を悩ませたことがあったようである。

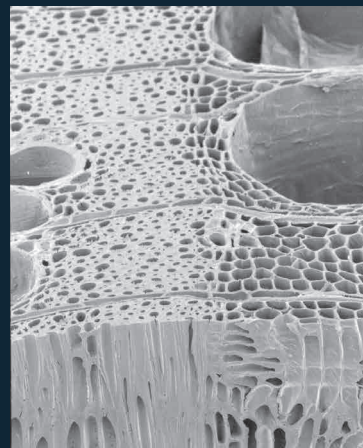
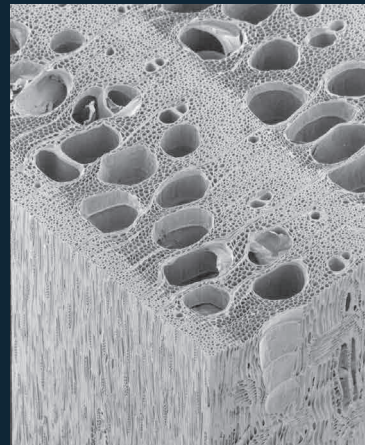
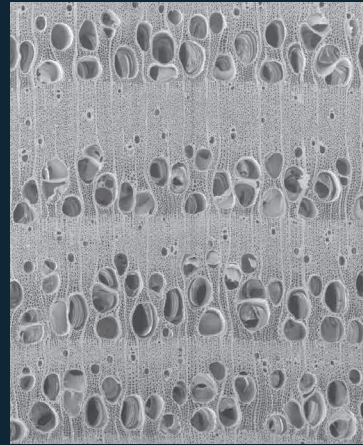
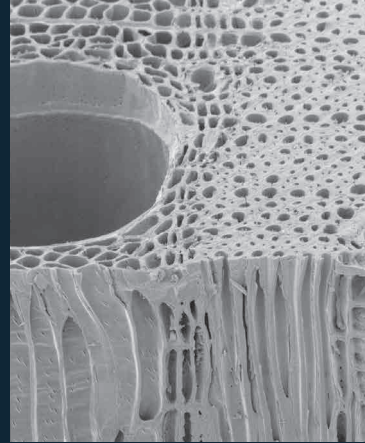
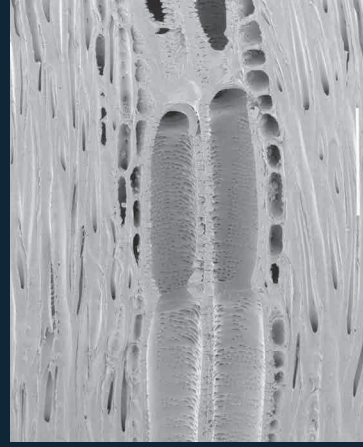
日本ではヤチダモの仲間にアオダモ、シオジやトネリコなど多くの種があり、これらもさまざまな用途に使われている。また、中国北部に分布するヤチダモは水曲柳(スイチュウリュウ)と呼ばれ、過去には大量の木材が日本に輸入されていたこともある。

木材・合板博物館 副館長 平川泰彦

## PLY (ぶらい)

PLYとは重ねるという意味があり、  
WOODを加えると  
PLYWOOD (合板)を  
意味している。

歳月や経験を重ねることの重要性と、  
木材が年輪を重ねて  
成長する姿も重ね合わせている。



## PLY 木の誌上展覧会 走査電子顕微鏡写真「ヤチダモ」

写真提供：国立研究開発法人  
森林研究・整備機構 森林総合研究所